21　　再会した二人　　　　　　　　　　　　　　助詞で人物関係を把握する

昔、男ありけり。宮仕へ忙しく、心もまめならざりけるほどのＡ家刀自、まめアに思はむといふ人につきて、人の国へ往イにけり。

この男、Ｂ宇佐の使ひにて行きけるに、ある国の祗承のＣ官人の妻ウにてなむあると聞きて、

「Ｄ女あるじエにかはらけ取らせよ。さらずは飲まじ」

とⅠ言ひければ、かはらけ取りて出だしたりけるオに、肴なりける橘を取りて、

　五月まつ花たちばなの香をⅡかげばＥ昔の人の袖の香ぞする

と言ひけるにぞ思ひ出でて、尼になりて、山に入りてぞありける。

【本文チェック】

①□ア～オの「に」は、ａ動詞の一部・ｂ形容動詞の一部・ｃ格助詞・ｄ接続助詞・ｅ助動詞のどれか。それぞれ【　】に記号で書きなさい。

ア【　　　】　イ【　　　】　ウ【　　　】

エ【　　　】　オ【　　　】

②二重傍線部Ⅰ・Ⅱを現代語訳し、（　）に書きなさい。

Ⅰ（　　　　　　　　　）

Ⅱ（　　　　　　）

③傍線部Ａ～Ｅのうち、異なる人物を指すものを一つ選び、記号に〇をつけなさい。

Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　往ぬ〔２〕　（　　　ぬ）

２　橘〔６〕　　（　　　　　　）

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　人よりはまめなるとさかしがる人しも、ことに人の思ひいたるまじきある構へよ。

（源氏物語）

ア　小さい　　イ　真面目だ

ウ　丈夫だ　　エ　よく働く

（　　　）

２　もとのように上げわたせ。さらずは、悪しかりなむ。（大鏡）

ア　そうはいうものの　　イ　そうに違いないので

ウ　そうでなければ　　　エ　そうでないとしても

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の傍線部は、ア格助詞、イ接続助詞のいずれかを答えよ。

１　あまりに水が速うて、馬は押し流され候ひぬ。（平家物語）

（　　　）

２　桜は奈良の都にのみありけるを、このごろぞ世に多くなり侍るなる。（徒然草）

（　　　）

３　多くの白拍子ありしが、かかる舞はいまだ見ず。（平家物語）

（　　　）

４　かたじけなき御心ばへのなきを頼みにて、（源氏物語）

（　　　）

問４　次の傍線部を現代語訳せよ。

１　涙のこぼるるに、目も見えず、ものも言はれず。（伊勢物語）

（　　　　　　　　　　　）

２　まかでなむとし給ふを、さらに許させ給はず。（源氏物語）

（　　　　　　　　　　　）

問５　次の文章中の①～⑤の主語を、後から選べ。なお、同じ記号を何度用いてもよい。

　物の、物付きにつきて言ふやう、「おのれは、たたりの物の怪にても侍らず。うかれて、まかり通りつるなり。塚屋に子どもなど侍るが、①物をほしがりつれば、かやうの所には、食ひ物、散ろぼふものぞかしとて、②まうで来つるなり。しとぎばら食べて、まかりなん」と③言へば、④しとぎをせさせて、一とらせたれば、すこし食ひて、「あな、うまや、うまや」と⑤言ふ。（宇治拾遺物語）

　※物付き…の際に物の怪を宿らせる人のこと。

　※塚屋…墓場の中の小屋。　※しとぎ…。

ア　狐　　イ　狐の子　　ウ　周囲の人

①（　　　）　　②（　　　）　　③（　　　）

④（　　　）　　⑤（　　　）

【探究】発展的に考えてみよう

問６　「女あるじ」は、なぜ尼になったのだろう。「女あるじ」の境遇を踏まえて、考えてみよう。

〔

〕

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝ｂ　イ＝ａ　ウ＝ｅ　エ＝ｃ　オ＝ｄ

②　Ⅰ＝言ったので　Ⅱ＝かぐと

③　Ｂ

問１　１＝い　２＝たちばな

問２　１＝イ　２＝ウ

問３　１＝ア　２＝イ　３＝イ　４＝ア

問４　１＝こぼれるので　２＝しなさるけれど

問５　①＝イ　②＝ア　③＝ア　④＝ウ　⑤＝ア

問６　観点　男が昔の夫だったと思い出したことに着目し、他の男に心変わりをして、夫を忘れていた我が身を恥じ、人の妻であるべきではないと思ったからとも考えられる。他の回答でも本文に基づき考えられていればよい。

【現代語訳】

問２　１　人よりは真面目だと利口ぶっている人に限って、とりわけ人の思いつきそうにない秘密の企みをするものだ。

２　もとのとおりに（格子を）上げわたせ。そうでなければ、無事ではすむまいぞ。

問３　１　あまりに水が速くて、馬は押し流されました。

２　八重桜は（以前は）奈良の都にだけあったけれど、このごろは世間一般に多く

なっているようです。

３　多くの白拍子がいたけれど、このような舞は今まで見たことがない。

４　おそれ多いご愛情がまたとないことを頼みにして、

問４　１　涙がこぼれるので、目も見えず、ものも言うことができない。

２　退出しようとしなさるけれど、（帝は）休暇をまったくお許しにならない。

問５　物の怪が、物付きに取りついて言うには、「自分は、たたりをなすために取りついた物の怪ではございません。さ迷い歩いて、（こちらを）通りがかりにうかがった狐です。墓場の中の小屋に子どもなどがおりますが、食べ物をほしがったので、このような所には、食べ物が、散らばっているものだよと思って、参上したのです。餅でも食べて、退散しよう」と言うので、餅をこしらえさせて、角盆いっぱいにとらせたところ、少し食べて、「ああ、うまい、うまい」と言う。